

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	平成25年11月8日
【四半期会計期間】	第16期第2四半期（自平成25年7月1日至平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社トランスジェニック
【英訳名】	TRANS GENIC INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 福永 健司
【本店の所在の場所】	熊本県熊本市中央区九品寺2丁目1番24号
【電話番号】	(096) 375 - 7660 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 坂本 珠美
【最寄りの連絡場所】	熊本県熊本市中央区九品寺2丁目1番24号
【電話番号】	(096) 375 - 7660
【事務連絡者氏名】	取締役 坂本 珠美
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第2四半期 連結累計期間	第16期 第2四半期 連結累計期間	第15期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	230,876	561,499	704,067
経常損失( ) (千円)	123,586	168,287	31,737
四半期純損失( ) 又は当期純利益 (千円)	151,371	179,798	27,048
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	152,387	180,532	24,474
純資産額(千円)	2,144,934	2,690,801	2,323,232
総資産額(千円)	2,267,943	3,570,534	2,946,568
1株当たり四半期純損失金額( ) 又は1株当たり当期純利益金額 (円)	11.68	13.35	2.09
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)			2.08
自己資本比率(%)	94.0	73.8	78.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	62,003	63,981	18,471
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	94,373	215,092	52,239
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)		448,156	1,436
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高(千円)	1,242,160	1,498,345	1,329,262

回次	第15期 第2四半期 連結会計期間	第16期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	4.28	2.76

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純損失金額又は1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
4. 第15期第2四半期連結累計期間及び第16期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む主な事業内容の変更及び関係会社の異動は次のとおりであります。

### < C R O (Contract Research Organization) 事業 >

平成25年4月において、株式会社新薬リサーチセンターを設立し、また、平成25年7月に株式会社メディフォームの株式を取得し、当該2社を連結の範囲に含めております。

### < 病理診断事業 >

平成25年7月において、株式会社ジェネティックラボの株式を取得し、連結の範囲に含めております。これに伴い新たに「病理診断事業」セグメントを追加しました。

この結果、平成25年9月30日現在では、当社グループは、当社、子会社4社及び関連会社1社により構成されることとなり、ジェノミクス事業、C R O 事業、抗体試薬事業、病理診断事業の4事業を営むこととなりました。なお、当該4事業はセグメント情報における区分と同一であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、当第2四半期連結累計期間におきましても、継続的な営業損失の発生及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。これにより、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。当該重要事象等を解消するため、既存事業の営業強化及び納期短縮、M & Aによる事業規模拡大により収益増加を目指します。資金につきましても、当第2四半期末時点での「現金及び預金」と「有価証券」の合計額は1,498,345千円であり、財務面に支障はないものと考えております。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至りませんでした。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高561,499千円（前年同期230,876千円）、営業損失131,870千円（前年同期125,738千円）、経常損失168,287千円（前年同期123,586千円）、四半期純損失179,798千円（前年同期151,371千円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、株式会社ジェネティックラボを子会社化したため、当第2四半期連結会計期間より「病理診断事業」を追加しております。

#### ジェノミクス事業

遺伝子改変マウス作製受託が順調に推移し、また、株式会社ジェネティックラボを子会社化したことにより同社の遺伝子解析事業が加わったこともあり、売上高は145,770千円（前年同期98,595千円）、営業利益は16,807千円（前年同期は営業損失15,687千円）と増収増益となりました。

#### CRO事業

第1四半期連結会計期間より株式会社新薬リサーチセンターを新たに連結の範囲に含めたことから、売上高は241,265千円（前年同期42,220千円）と増加しましたが、固定費の回収には至らず、営業損失は59,874千円（前年同期29,181千円）と増収減益となりました。

#### 抗体試薬事業

株式会社ジェネティックラボを子会社化したことにより同社の分子病理解析受託サービスやCTC（血中循環腫瘍細胞）測定サービスなどが加わったこともあり、売上高は113,205千円（前年同期90,060千円）、営業利益は16,523千円（前年同期13,053千円）と増収増益となりました。

#### 病理診断事業

当第2四半期連結会計期間より新たに追加された当事業は、株式会社ジェネティックラボが北海道内の医療機関や検査センターと連携し病理診断サービスを提供するものであり、売上高は61,257千円、営業利益は1,114千円でありました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは 63,981千円（前年同期 62,003千円）となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純損失176,194千円（前年同期143,221千円）、売上債権の減少額105,517千円（前年同期61,956千円）等によるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

有形固定資産の取得による支出77,227千円（前年同期87,557千円）、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入66,514千円、事業譲受による支出190,000千円等により、投資活動によるキャッシュ・フローは215,092千円（前年同期 94,373千円）となりました。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

新株予約権の行使による株式の発行による収入477,697千円、短期借入金の返済による支出25,000千円等により、財務活動によるキャッシュ・フローは448,156千円となりました。

以上の結果、当第2四半期末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ169,083千円増加し、1,498,345千円（前年同期1,242,160千円）となりました。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、重要な変更はありません。

#### 買収防衛策について

当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

##### 基本方針の内容

当社は「生物個体からゲノムにいたる生命資源の開発を通じて基盤研究および医学・医療の場に遺伝情報を提供し、その未来に資するとともに世界の人々の健康と豊かな生活の実現に貢献する」を経営理念とし、主としてジェノミクス事業、CRO事業及び抗体試薬事業を展開するバイオベンチャーであります。これらの事業は、生命資源を取り扱うことや日進月歩で技術革新が進む事業分野であることから、高い倫理観やバイオテクノロジーに関する専門的な知識・ノウハウが要求されます。

従って、当社の経営には上記のような事業特性を前提とした経営のノウハウならびにバイオ関連ビジネスに関する高度な知識、技術、経験を有する従業員、大学・企業との共同研究先及び取引先等のステークホルダーとの間に築かれた関係等が重要であり、これらへの理解が不可欠であると考えております。

##### 不適切な支配の防止のための取組み

当社取締役会は、公開会社として当社株式の自由な売買を認める以上、当社株式の売買は、株主、投資家の自由意思に委ねられるべきものと考えており、特定の者の大規模買付行為においても、これに応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有される当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えております。しかしながら、当社の事業に対する理解なくして行われる当社株式の大規模買付行為がなされた場合には当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることになると考えております。

以上の理由により、当社取締役会は、定時株主総会で株主の皆様の合理的な意思の確認ができることを条件として、当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）の導入を決定いたしました。同買収防衛策の導入は、平成18年6月28日開催の当社第8期定時株主総会にてご承認をいただいております。

上記の取組みについての取締役会の判断

当社取締役会は、上記の取組みが当社の上記の基本方針に沿って策定され、当社の企業価値、株主共同の利益を確保するためのものであり、株主の皆様共同の利益を損なうものではないと考えております。

当社取締役会は、上記の取組みは、あくまで株主の皆様ごの自由な意思決定を行うための前提となる必要な情報・機会を確保することを目的として、それに必要かつ相当なルールを設定するものであり、現経営陣の保身に利用されることや不当に株主の株式売却に対する自由を妨害することにつながるという弊害は生じないものと考えております。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、17,809千円（前年同期18,238千円）であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、株式会社新薬リサーチセンターを連結の範囲に含めたことに伴い、CRO事業の従業員数が44名増加しております。また、株式会社ジェネティックラボを連結の範囲に含めたことに伴い、ジェノミクス事業で4名、抗体試薬事業で14名、病理診断事業で22名従業員数が増加しております。なお、従業員数は就業人員数（グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であります。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、株式会社新薬リサーチセンターを連結の範囲に含めたことに伴い、CRO事業の受注及び販売実績が著しく増加しております。また、株式会社ジェネティックラボを連結の範囲に含めたことに伴い、病理診断事業が新たに追加され販売実績が増加しております。

(7) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、株式会社新薬リサーチセンターを連結の範囲に含めたことに伴う主要な設備の増加は、以下のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額（千円）			
				建物及び 構築物	土地	その他	合計
(株)新薬リサーチ センター (連結子会社)	中央研究所 (北海道恵庭市)	CRO事業	臨床・前臨床試験 受託用設備等	94,901	34,936	13,942	143,780

（注）金額には、消費税等は含まれておりません。

(8) 経営者の問題認識と今後の方針について

「1 事業等のリスク」に記載のとおり、当社グループは、継続的な営業損失の発生及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。当該重要事象等を解消するため、既存事業の営業強化及び納期短縮、M&Aによる事業規模拡大により収益増加を目指します。資金につきましても、当第2四半期末時点での「現金及び預金」と「有価証券」の合計額は1,498,345千円であり、財務面に支障はないものと考えております。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	43,630,100
計	43,630,100

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,624,100	13,624,100	東京証券取引所 マザーズ市場	単元株式数 100株
計	13,624,100	13,624,100		

(注) 提出日現在発行数には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月29日 (注)		13,624,100	3,106,555	2,550,604	547,836	251,803

(注) 平成25年6月25日開催の定時株主総会決議に基づき、平成25年7月29日付で、資本金及び資本準備金をその他資本剰余金に振替え、振替え後のその他資本剰余金を繰越利益剰余金に振替えることにより欠損填補を行っております。

( 6 ) 【大株主の状況】

(平成25年9月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
坂本 佐兵衛	青森県東津軽郡蓬田村	201,000	1.47
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町 1 - 4	199,400	1.46
株式会社SBI証券	東京都港区六本木 1 - 6 - 1	181,600	1.33
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内 1 - 6 - 6	135,000	0.99
三松 成子	福岡市南区	130,500	0.95
上永 智臣	熊本県八代市	105,500	0.77
原田 育生	岡山県総社市	91,400	0.67
野村證券株式会社 野村ネット& コール	東京都千代田区大手町 2 - 2 - 2	90,200	0.66
マネックス証券株式会社	東京都千代田区麹町 2 - 4 - 1	86,310	0.63
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町 1 - 2 - 10	85,200	0.62
計		1,306,110	9.58

( 7 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

(平成25年9月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,621,700	136,217	
単元未満株式	普通株式 1,000		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,624,100		
総株主の議決権		136,217	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には証券保管振替機構名義の株式100株(議決権1個)が含まれており  
ます。

【自己株式等】

(平成25年9月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社トランスジェニック	熊本県熊本市中央区九 品寺2丁目1番24号	1,400		1,400	0.01
計		1,400		1,400	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	429,262	698,345
受取手形及び売掛金	237,152	224,019
有価証券	900,000	800,000
商品及び製品	12,513	10,719
仕掛品	5,876	77,380
原材料及び貯蔵品	7,128	10,815
その他	22,402	35,305
貸倒引当金	485	796
流動資産合計	1,613,850	1,855,788
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	807,094	938,611
減価償却累計額	179,109	221,838
建物及び構築物(純額)	627,985	716,773
土地	581,747	621,290
その他	331,768	536,887
減価償却累計額	245,566	442,598
その他(純額)	86,201	94,289
有形固定資産合計	1,295,935	1,432,352
無形固定資産		
のれん	-	249,100
その他	483	383
無形固定資産合計	483	249,483
投資その他の資産		
その他	36,299	35,259
貸倒引当金	-	2,350
投資その他の資産合計	36,299	32,909
固定資産合計	1,332,718	1,714,745
資産合計	2,946,568	3,570,534

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,030	5,846
短期借入金	-	25,000
1年内返済予定の長期借入金	-	10,296
未払金	106,289	122,641
未払法人税等	13,653	7,302
賞与引当金	6,341	7,734
受注損失引当金	980	2,487
その他	31,600	166,395
流動負債合計	160,895	347,703
固定負債		
社債	-	50,000
長期借入金	-	22,236
長期未払金	462,440	404,635
その他	-	55,158
固定負債合計	462,440	532,029
負債合計	623,335	879,732
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,405,356	2,550,604
資本剰余金	547,836	251,803
利益剰余金	3,641,302	166,708
自己株式	1,782	1,782
株主資本合計	2,310,108	2,633,916
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40	-
その他の包括利益累計額合計	40	-
新株予約権	7,562	12,443
少数株主持分	5,602	44,441
純資産合計	2,323,232	2,690,801
負債純資産合計	2,946,568	3,570,534

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
売上高	230,876	561,499
売上原価	183,803	421,990
売上総利益	47,072	139,508
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 172,811	<sup>1</sup> 271,379
営業損失 ( )	125,738	131,870
営業外収益		
受取利息	1,422	936
貸倒引当金戻入額	106	1,762
その他	1,189	760
営業外収益合計	2,718	3,459
営業外費用		
支払利息	-	1,228
持分法による投資損失	193	373
株式交付費	-	19,942
買収関連費用	-	12,245
投資事業組合運用損	372	-
その他	-	6,086
営業外費用合計	566	39,876
経常損失 ( )	123,586	168,287
特別損失		
投資有価証券評価損	-	7,906
減損損失	19,634	-
特別損失合計	19,634	7,906
税金等調整前四半期純損失 ( )	143,221	176,194
法人税、住民税及び事業税	2,857	4,378
法人税等調整額	4,787	-
法人税等合計	7,644	4,378
少数株主損益調整前四半期純損失 ( )	150,866	180,572
少数株主利益又は少数株主損失 ( )	504	773
四半期純損失 ( )	151,371	179,798

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	150,866	180,572
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,520	40
その他の包括利益合計	1,520	40
四半期包括利益	152,387	180,532
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	152,892	179,758
少数株主に係る四半期包括利益	504	773

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	143,221	176,194
減価償却費	19,838	25,482
減損損失	19,634	-
のれん償却額	615	13,183
貸倒引当金の増減額( は減少)	106	1,762
受取利息及び受取配当金	1,472	941
支払利息	-	1,228
持分法による投資損益( は益)	193	373
株式交付費	-	19,942
買収関連費用	-	12,245
新株予約権発行費	-	5,312
投資有価証券評価損益( は益)	-	7,906
売上債権の増減額( は増加)	61,956	105,517
たな卸資産の増減額( は増加)	11,497	4,154
仕入債務の増減額( は減少)	8,218	16,389
未払金の増減額( は減少)	34,979	1,801
前払費用の増減額( は増加)	4,787	6,643
その他の資産の増減額( は増加)	15,126	4,143
その他の負債の増減額( は減少)	3,070	59,707
小計	57,835	55,346
利息及び配当金の受取額	1,476	1,048
利息の支払額	-	293
法人税等の支払額	5,644	9,389
営業活動によるキャッシュ・フロー	62,003	63,981
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	400,000	-
有価証券の償還による収入	400,000	-
有形固定資産の取得による支出	87,557	77,227
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	66,514
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	1,322
事業譲受による支出	7,500	190,000
貸付金の回収による収入	569	581
敷金の差入による支出	-	2,024
その他	114	11,614
投資活動によるキャッシュ・フロー	94,373	215,092
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	-	25,000
長期借入金の返済による支出	-	1,716
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	477,697
新株予約権の発行による収入	-	5,535
その他	-	8,360
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	448,156
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	156,376	169,083
現金及び現金同等物の期首残高	1,398,536	1,329,262

現金及び現金同等物の四半期末残高	1,242,160	1,498,345
------------------	-----------	-----------

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、株式会社新薬リサーチセンターを設立し、連結の範囲に含めております。また、当第2四半期連結会計期間において、株式会社メディフォーム及び株式会社ジェネティックラボの株式を取得し、連結の範囲に含めております。なお、当該連結の範囲の変更は、当四半期連結会計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与える見込みです。影響の概要につきましては、「注記事項(セグメント情報等)」に記載しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
給与及び手当	40,111千円	75,810千円
賞与引当金繰入額	1,187	2,569
研究開発費	18,238	17,809

2 当社グループの売上高は、季節的変動が著しく、下半期に売上が集中する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	342,160千円	698,345千円
有価証券勘定	900,000	800,000
現金及び現金同等物	1,242,160	1,498,345

(株主資本等関係)

株主資本の著しい変動

第1四半期連結会計期間において、新株予約権の行使により資本金が251,803千円、資本準備金が251,803千円増加しました。また、平成25年6月25日開催の定時株主総会決議に基づき、平成25年7月29日付で、資本金3,106,555千円及び資本準備金547,836千円をその他資本剰余金に振替え、振替え後のその他資本剰余金3,654,392千円を繰越利益剰余金に振替えることにより欠損填補を行っております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,550,604千円、資本剰余金が251,803千円となっております。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ジェノミク ス事業	CRO 事業	抗体試薬 事業	病理診断 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	98,595	42,220	90,060		230,876		230,876
セグメント間の内部売上高又は振替高							
計	98,595	42,220	90,060		230,876		230,876
セグメント利益又は損失 ( )	15,687	29,181	13,053		31,815	93,922	125,738

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ジェノミクス事業」セグメントの一部である遺伝子解析事業について、当初想定していた収益が見込めなくなったことから、設備及びのれんの減損損失を計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は19,634千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ジェノミク ス事業	CRO 事業	抗体試薬 事業	病理診断 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	145,770	241,265	113,205	61,257	561,499		561,499
セグメント間の内部売上高又は振替高							
計	145,770	241,265	113,205	61,257	561,499		561,499
セグメント利益又は損失 ( )	16,807	59,874	16,523	1,114	25,429	106,441	131,870

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

株式会社ジェネティックラボの株式を取得し子会社化したことに伴い、当第2四半期連結会計期間より、「病理診断事業」を報告セグメントに追加しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の区分方法により作成したものを開示しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社ジェネティックラボの株式を取得し子会社化したことに伴い、「ジェノミクス事業」において15,301千円、「抗体試薬事業」において45,903千円、「病理診断事業」において91,807千円、のれんが増加しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社ジェネティックラボ  
事業内容 遺伝子発現解析、先端医療開発、病理学的診断

(2) 企業結合を行った主な理由

基礎研究から前臨床試験、臨床試験までのシームレスな創薬支援の実現を目的としております。

(3) 企業結合日 平成25年7月31日

(4) 企業結合の法的形式 株式取得

(5) 結合後企業の名称 変更ありません。

(6) 取得した議決権比率 68.7%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とする株式取得であるため。

2 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成25年8月1日から平成25年9月30日まで

3 取得した事業の取得原価及びその内訳 現金 240,000千円

4 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

- (1) 発生したのれん 153,012千円  
(2) 発生原因 今後の事業展開に期待される超過収益力  
(3) 償却方法及び償却期間 10年の定額法

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額( )	11円68銭	13円35銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額( )(千円)	151,371	179,798
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額 ( )(千円)	151,371	179,798
普通株式の期中平均株式数(株)	12,956,400	13,472,372
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		第3回新株予約権 取締役会決議日 平成25年4月12日 新株予約権 5,400個 目的となる株式の数 540,000株

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2. 当社は、平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

## 2【その他】

### (1) 決算日後の状況

特記事項はありません。

### (2) 訴訟

当社は、平成23年8月19日付（訴状送達日：平成23年9月5日）で神戸地方裁判所において、株式会社GMJより、同社役員及び従業員の退職及び当社による雇用に関して損害賠償請求（4億210万円）の訴訟を提起されておりましたが、平成25年10月30日に判決が言い渡され、原告の請求のうち2百万円を除きいずれも棄却されました。当社の主張が概ね認められたものと認識しております。

なお、原告により控訴が提起された場合は、引き続き当社の主張が認められるよう対応してまいります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月5日

株式会社トランスジェニック

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 工藤 重之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 増村 正之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社トランスジェニックの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社トランスジェニック及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。